

# 落語でお年寄り笑顔に

「ちりとてちん」など 「楽しかった」

京都市北区の介護施設「洛和ホームライフ北野白梅町」で2日、立命館大落語研究会の寄席「笑門来福」があり、入居者や地域住民ら約40人が学生の落語を楽しんだ。



落語を披露し、お年寄りたちを楽しませる学生

(京都市北区・洛和ホームライフ北野白梅町)

笑いを通して多世代交流を図ろうと、介護施設などを運営する洛和会ヘルスケアシステム(山科区)が初めて企画した。研究会に所属する学生3人が登壇し、「ちりとてちん」などを披露。人情味あふれる登場人物のせりふに、会場は笑いに包まれた。緊張状態の学生には「頑張れ」と声援が飛んだ。

「松山鏡」を演じた立の家そら豆こと、高久運さん(19) Ⅱ文学部2年Ⅱは「観客を全力で楽しませ、笑顔にしたいという気持ちでやった。見てもらってうれしい」と話した。入居者の古澤千鶴子さん(89)は「楽しかった。次は現代的な落語も聞いてみたい」と期待した。

洛和会丸太町病院(中京区)の言語聴覚士による「笑いの準備体操」もあった。洛和会ヘルスケアシステムは今後も近隣大学と連携し介護施設での寄席を計画している。

(赤嶺可有)